

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

「地球環境と世界市民」国際協会は、地球上に存在する一人一人が世界市民であることを自覚するとともに、その世界市民が国際的に「地球環境問題」ひいては「生命に関わる問題」についての理解を深め、その解決への取り組みを“今できること”から実行し、協力していくことを目的とした協会です。このニュースレターは、本協会のこうした主旨にもとづき、協会員相互のコミュニケーションをはかるために発行されています。

2001年を振り返って

会長 谷口文章

本協会が設立して、約4年が経とうとしております。これまで、中国やタイにおいて国際会議などのグローバルな活動をおこない、国内ではエコ・クッキングやフィールド・ワークなどローカルな活動もおこなってまいりました。

昨年はず4月に、第4回大会を甲南大学において3日間にわたり開催いたしました。第1日目は大学本校舎において研究発表、第2日・3日目は環境教育広野野外施設においてエコ・クッキングや農作業などのワークショップをおこないました。次に8月には「第4回国際保健医療行動科学会議」においてNancy Turner先生(カナダヴィクトリア大学教授)をお招きして、サテライトシンポジウムを開催いたしました。また、10月～11月にかけて、甲南大学において「ひょうごオープンカレッジ」を開催し、環境省の浅野環境教育推進室室長やUNESCOの方をお招きし、貴重なお話を伺うことができました。さらに、「EMECs 2001」が神戸にて開催され、「環境教育フェア」のオープン・フォーラムにおいてコーディネーターをつとめさせていただきました。そして、12月には毎年恒例になっております「餅つき大会」を環境教育広野野外施設にて開催いたしました。このように本協会では昨年はたくさんのシンポジウム、研究会、学会などを開催いたしました。



今年、昨年までの経験を活かし、世界市民として国際的な視野から地球環境問題についてより深く考え、環境活動をおこない、さらなる飛躍の年となるように皆様とご一緒に頑張りたく思います。

第4回国際保健医療行動科学会議 サテライトシンポジウムの報告

第4回国際保健医療行動科学会議のサテライトシンポジウムの
ナンシー・ターナー先生の講演（日本環境教育学会関西支部共催）
中野友博（姫路獨協大学）

8月25日に行われたカナダ、ヴィクトリア大学のナンシー・ターナー先生のシンポジウムに参加しましたのでその報告をします。

丁度7月の下旬から8月にかけて神戸近郊の子ども達を40名ほど引率してカナダへキャンプに行ってきました。そのとき体験したカナダの素晴らしい自然を思い浮かべながらのシンポジウムでした。

シンポジウムの内容はナンシー先生がご自身の大学で行われている授業風景のスライドを見ながら進みました。先生がカナダの先住民（the First Nations）の方々と関わられていく中で、彼らが代々継承してきた伝統的な文化をどのように理解し、その文化をどのように次の世代へ引き継いでいくのかという内容でした。

先住民の文化は、大自然の中で人間がどのように環境と共生していけるか。そのための生きていく知恵でした。そこでは環境と人間（生命）は相対するものではなく、融合するものとして考えられ、「健やかな環境を育むことは、健やかな生命を育むことにつながる」と説明されました。

また、「plant and human culture（植物と人の文化）」という授業実践のスライドがありました。その中で興味を引かれたのは先住民の文化の一つである「pit cooking（穴調理法）」の紹介です。これは地面に直径1メートル、深さ1メートルほどの穴を掘り、穴の底によく焼いた石を敷き詰め、その上に1本のポールを立てます。そのポールの周りに食材（イモ類、穀物等の野菜）を入れていき、最後にポールを抜いてその穴に水を注ぎ込んで蒸し焼きにするというものです。当然穴を掘り、石を集め、焼くところから始まり、最後に水を注ぐまで、参加学生の協力があって料理ができあがります。どれぐらいの大きさの穴を掘るのか、また石をどの程度敷き詰めるのか、注ぎ込む水の量は、できあがるまでの時間は・・・等、先住民の方々から情報を得ながら、またわからない部分は試行錯誤の末に、料理ができあがった時の学生たちの顔は素晴らしいものでした。この学生たちの中に先住民の若者がいることで、この文化が継承されていくことにもなるそうです。このpit cookingの授業では、生活する周りの食物について、生態系について学習するだけでなく、多くに人と役割分担し協力することで目標を達成することができるという cooperative experience（協力体験）も重要な要素になっていました。

今回は環境教育というキーワードでのシンポジウムでしたが、その目標とするところは「環境問題からはじまり、さまざまな学習をしながら、最終的に各人の

直接的な行動変容を目的にする環境教育」だけでなく「驚きの感性 (sense of wonder) を持った心豊かな人間を育てるためには、伝統的な行事や文化までもその範疇に含めた環境教育」必要であるということでないでしょうか。また、このスライドではさまざまな環境教育活動が行われていましたが、その要素は自然体験活動であり、また相互理解活動（仲間作り）であることから、環境教育と野外教育が大きく重なっているということが再確認できた。

是非機会があればカナダの大学での授業を受講してみたいと思う。pit cooking は日本でも可能な・・・



カナダ・ヴィクトリア大学教授 Dr. Nancy Turner 先生

EMECS 環境教育フェア

オープンフォーラムの報告

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECS2001)

環境教育フェアに参加して

植田善太郎 (泉大津市立上條小学校教諭)

EMECS2001の会期は2001年11月19日(月)～22日(木)なので本会議のプレ企画のような形でサイドプログラムという名目で、「環境教育フェア」は18日(日)・19日(月)の2日間行われました。会場は神戸国際展示場で同じ場所で「環境修復・創造エキスポ～沿岸域環境修復・創造技術展～」が開催されていました。

なにしろ、EMECS自体がどのような歴史的経過で生まれたかも知らずに参加したものですから、この報告をすることに少し無理があることをはじめにご了解願います。

「環境教育フェア」には、世界の環境教育ゾーンA、B・身近な環境教育ゾーン・

生態系と環境破壊ゾーン・ライフステージで見る環境教育・エコ・ステージ・物販・交流広場の8つのゾーンがあって、日本環境教育学会は「世界の環境教育ゾーン」の中で人間環境宣言（ストックホルム宣言）、各国および日本の環境教育教材を出展協力していました。

私の身近なところでは、兵庫県立人と自然の博物館とあおぞら財団が「身近な環境教育ゾーン」に、レイチェル・カーソン協会が「生態系と環境破壊ゾーン」に、日本環境協会が「ライフステージで見る環境教育」に出展されていました。

私は、NPO法人エコパートナー21が運営する「エコ・ステージ」のタイムスケジュールに沿って参加させてもらいました。ユネスコ「世界の教育」、ミュージカル「波のささやき～ゆうちゃんとアカウミガメの物語」、環境教育実践「川と海を汚したのは誰?」、環境教育オープンフォーラム「21世紀における環境教育」に参加しました。

中でもエコ企画の藤村コノエさんがされた環境教育実践「川と海を汚したのは誰?」で参加した小さい子どもからお年寄りまでが川を汚していることを身をもって実感する参加型のワークショップが印象に残っています。ただ、関東から藤村さんを招待するまでもなく、関西の自前の人材でやれないものかと思いました。

環境教育オープンフォーラム「21世紀における環境教育」は谷口文章教授がコーディネーターをされました。パネリストのグロリア・スナイブリー（ビクトリア大学教授）は環境教育における枠組み作りに力を入れていることと、将来に悲観している子どもに対して夢を持たせる教育の必要性を話されました。また、パネリストとして残られた藤村さんはこれからの環境教育は「子どもと自然に逃げるな」ということを強調され、持続可能な循環型社会をめざす教育を説かれました。まとめでは、日本の環境教育がきれいごとにと終わっていることに問題を投げかけるとともに、日本固有の環境教育の構築、環境教育学のフレームワーク、教師の資質向上などの必要性を述べられてオープンフォーラムが終了しました。

半日ちょっと参加しただけのフェアでしたが、広範囲な議論に触れることができ有意義な1日でした。



環境教育フェアの熱心な議論



ヴィクトリア大学Dr.G.Snivry先生と
UNESCOのMr.Kujipen氏

「地球環境と世界市民」国際協会ワークショップ報告

2001年5月に甲南大学広域副専攻環境学コース「環境教育の実践」の一環として甲南大学生、中・高校生、甲南女子中・高校生が協力して植えて、無農薬で育てたお米の収穫を10月におこないました。田植え、稲刈りともに機械を使わず、手でおこないました。12月には収穫したお米を使った「餅つき大会/エコ・クッキング講習会」を開催した。ワークショップは、食べ物の安全性を考えるものです。

ワークショップには、教育改革の一環として甲南中・高校生、甲南女子中・高校生や平成13年度兵庫オープンカレッジの卒業生も参加しました。

< 中学生・高校生の声 >

稲刈り編

10月の連休に、5月の田植えに続き、稲刈りをするために広野へ行った。田植えの実習の時、とても楽しかったし、貴重な体験ができたと思った。もちろん、今回の稲刈りでも、要領を覚えるとスパスパ稲を刈ることができ、貴重な体験ができたと思っている。

田中脩嗣(甲南高校2年)



今回広野に行って、一番良かったことは、いろいろな人に会えたことです。みんな、今まで私が気が付かなかったようなことにも気づき実行する人たちがばかりでした。それも、すべて今までに様々な環境問題などについて考えてきたからこそできるんだと思いました。稲刈りでは、今まで育ててきた人に少し悪い気がしながら刈っていました。刈るのはすぐに終わってしまうけれど、育てるのはとっても時間がかかるから、私たちが刈ってしまうのは、もったいない感じがしました。でも、とてもおもしろかったです。

鄒 秀 (甲南女子中学3年)



餅つき大会編

昔は毎年餅つきをしていたのですが、要領を忘れていて、苦労しました。でも、一口食べると疲れが吹き飛びました。この餅の味は忘れられないものとなりました。

西川昌伸(甲南高校3年)

とても楽しかったです。そして、とてもおいしかったです！！無農薬の餅のおいしさを存分に味わいました。また、普段は接する機会のない甲南大学生や先生方と楽しい時間を過ごすことができ、とてもよかったです。

瀬戸本舞（甲南女子高校3年）

広野の活動について

自然が豊かで、散策するにはもってこいの場所だったのですごく楽しかったです。とても心に響くものを感じました。

石橋裕子（甲南女子高校2年）



< 一般参加者の声 >

大勢での餅つきは楽しい。いろいろな体験の程度があり、その気持ちが伝わってくるのがうれしい。自分たちで育て、収穫し、食べたものの味は格別だ。自分との係わりが感じられることは、物の見方を変えてくれる。

山本満義（甲南女子高校教諭）

久しぶりに餅つきをしました。特に印象的であったのは、小さな子どもから大人まで皆が楽しそうにしていたことです。環境教育が世代や立場に関係なく、有効なものであることが実感できました。

林正樹（甲南学園職員）

私は子どもの頃から餅つきをしています。初めての生徒さんがはじめてながら、みようみまねで、楽しく、生き生きと活動しているのを見ると、うれしく感じました。このような活動の積み重ねが、人間教育の基本であるとあらためて思いました。

土山敏夫（甲南大学）

餅つきを通じてなごやかな気分になり、年齢を越えて交流でき、すばらしかったです。

武田昭子（ひょうごオープンカレッジOG）



ネットワーク掲示板

日中学生会議 開催期日：2002年11月29日(金)【予定】 於：甲南大学
主催：「地球環境と世界市民」国際協会， 日中環境教育情報交流協会
お知らせ 中国・北京大学の学生と環境教育の取り組み及び国際的な情報交流を
めぐって学生会議を開催する予定です。日本側の大学生の発表者を募集中です。興味関
心のある方がいらっしゃいましたら、本事務局(連絡先：fumiaki@konan-u.ac.jp)ま
でお問合せください。

日本環境教育学会関西支部第11回研究大会

開催期日：2002年11月30日(土) 於：甲南大学
主催：日本環境教育学会関西支部 テーマ：「(検討中)」

公開シンポジウム：総合的学習における「環境教育」の展開 - 他者・国際理解、
パートナーシップ、循環型社会をめぐって - 開催期日：2002年12月1日
(日) 10:00 - 18:00 於：神戸市国際会議場 主催：日本環境教育学会
主要なプログラム 第一部：各論 - 実践モデルによる公開授業 - ワークショッ
プ：他者理解及び国際理解の視座からの環境教育【中学校・模範校】/ワークショップ
：循環型未来及びライフスタイルにおける環境教育のあり方【小学校・模範校】 第
二部：総論 - 公開シンポジウム「パートナーシップによる環境教育の推進」 - /基調講
演/公開シンポジウム：「パートナーシップによる環境教育の推進」

参加を希望される方は、下記の「地球環境と世界市民」国際協会事務局まで、
ご一報ください。

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室気付
Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp
Homepage: http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html

エコ・クッキングレシピVOL. 5

谷口ひろこ
エコクッキング・インストラクター

おいもごはん ホクホクのおいもごはんをどうぞ！！

<材料>

米：5合 サツマイモ：適量 酒：50cc(大さじ3強) 塩：20g(大さじ1強)
昆布もしくは昆布茶：少々()

()昆布や昆布茶の代わりに細かい塩ふき昆布を小さく(0.5cmくらい)に切って
いれても美味しくいただけます。ただし塩はひかえめで。

<つくり方>

下ごしらえ：サツマイモは、皮をむいて1cm角に切り、水にさらしてアクを抜く。

洗ったお米にお酒、昆布を加える。水は、入れてから普通の水加減にする。
なめてみて少し頼りない程度に塩を加える。
炊飯、できあがり。

ミネストローネ 野菜を切って、スープをつくらう！！

<材料>

ジャガイモ、タマネギ、ニンジン、ブロッコリーの茎、キャベツの芯など、
ガーリック、豆類（水につけておく）、トマト など

<つくり方>

野菜を炒めて煮る方法

1. ガーリックを細かく切る。ジャガイモ、ニンジンはサイコロ状に切る。タマネギも適当にざく切りにする。
2. 鍋にバターを入れ、まずガーリックを炒める。残りの野菜もいれ軽く炒め、水、ローリエの葉2～3を入れて、豆もあればことこと煮る。
3. アクが出ればアクをとる。
4. 塩味をつけてできあがり。

たくさんつくって、1日目は塩味、2日目はトマト味、3日目はカレー味という
具合に楽しむこともできる。

野菜を炒めないでつくる方法

1. 野菜を何でも切る。トマトも細かく切る。
2. 水、ローリエなどを加えて煮る。
3. チキンコンソメを加え、最後に塩コショウで味付けしてできあがり。

.....

編集後記

発行が遅くなりまして、お詫び申し上げます。次号No. 7は近日中に発行を予定しております。
投稿先、連絡先は下記の事務局までFAXかE-mailにて22字×75行程度（1ページ分）をお願い
いたします。写真なども掲載可能ですので、コミュニケーションの場としてご活用ください。
下記のホームページにも最新の情報を掲載しておりますので、ご参考にしてください。

「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No. 6

事務局：「地球環境と世界市民」国際協会

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内

Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp

Homepage: http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html
